

山形県 自家用自動車

県内上半期交通事故発生状況 死者数11人、前年比5人の減少

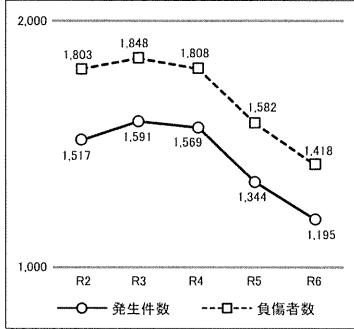
県警察本部

山形県警察本部のまとめによると、県内の本年1月から6月までの交通事故発生状況は、別表1のとおり、発生件数が1,195件で前年同期比14.9%の減少、負傷者数が1,418人で同16.4%の減少、死者数は11人で同5人(31.3%)の減少となっています。死者数11人のうち、65歳以上の高齢者は8人(前年同期比1人増)で、全体に占める割合は72.7%と依然として高い状況が続いています。

別表1 上半期県内の交通事故発生状況

	発生件数	死者数	負傷者数
本年	1,195	11	1,418
前年	1,344	16	1,582
増減	-149	-5	-164
増減率	-11.1	-31.3	-10.4
1日平均	6.6		7.8

別表2 県内上半期交通事故発生件数の推移



死者数の推移	R2	R3	R4	R5	R6
うち高齢者(割合%)	19	14	9	16	11
	63.2	57.1	77.8	43.8	72.7

で、発生件数及び負傷者数は、令和3年以降は減少傾向が続いています。県内の死者数11人のうち歩行者は2人で前年同期比3人の減少、このうち1人が横断中の事故で亡くなっています。また、四輪乗車中の7人のうち3人はシートベルト非着用(運転者2人、同乗者1人)となっています。また、二輪車と自転車に乗車中の事故でそれぞれ1名が亡くなっています。発生件数1,195件のうち、類型別では人対車両が104件(前年同期比7件増)、車両相互が1,028件(前年同期比1,066件、正面衝突が39件など)となっています。

そのほか、飲酒運転による事故が6件発生し、負傷者が6人、また運転中の携帯電話使用による事故10件発生し、負傷者が12人となっています。夏場は暑さや疲れなどからぼんやり運転による正面衝突や車両単独事故が多く発生する時期です。車を運転する際は、「前をよく見て運転に集中」「一時停止はしっかり止まる」「眠気を感じたらすぐ休憩」「全席シートベルト着用」を徹底するほか、体調管理を適切に行うとともに、体調不良時は運転しないなど交通事故防止に努めてください。

全国の死者数

警察庁のまとめによると、今年上半年の全国の交通事故死者数は1,182人で、前年同期比1人(0.1%)の増加となっています。うち高齢者は650人で、前年同期比4人(0.6%)増加し、半数以上を占めています。都道府県別で最も多かったのが千葉県(72人)、次いで東京都(69人)、愛知県(65人)となり、最も少なかったのは鳥取県の4人となります。

「東北ハイウェイ・セーフティ作戦」展開中!

県高速道路交通安全協議会
県高速道路交通安全協議会

山形県高速道路交通安全協議会と山形県警察本部、高速道路交通安全警察隊は、東北6県の高速道路関係機関、団体と共に、行業や帰省等により交通量が増加する7月21日から8月20日までの1か月間、「令和6年東北ハイウェイ・セーフティ作戦」を展開し、高速道路上における交通事故防止を目的とした広報啓発活動を展開中です。

7月19日、山形北インターチェンジにおいて出発式が行われ、協力事業所に対して安全運転実践車ステッカーと同作戦の広報垂れ幕が手渡され、その後、同ステッカーを掲示した活動が行われます。



安全運転啓発パレード出発

高速道路安全運転5則

- ① 安全速度を守る
- ② 十分な車間距離をとる
- ③ 割り込みをしない
- ④ わき見運転をしない
- ⑤ 路肩走行をしない

高速道路緊急時3原則

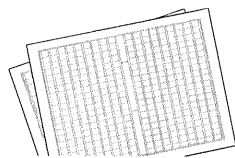
- ① 路上に立たない
- ② 車内に残らない
- ③ 安全な場所に避難する

令和6年度 交通安全ファミリー作文コンクール 作品募集中!

警察庁

交通安全ファミリー作文コンクールは、各家庭などにおいて交通安全について話し合いを行うことにより、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを習慣付けることを目的として、警察庁や全日本交通安全協会などが主催となり、昭和54年度から実施しているものですが、本年度は次の要領で実施されます。

- ◆ 応募期間
令和6年7月5日(金)～9月13日(金)
- ◆ 応募区分
●小学生の部 ●中学生の部
- ◆ 作文の題材等
家庭、学校、地域等において、交通安全について考え、話し合った内容や、その結果実行していることなどを1200字程度(小学生は400字から1200字程度)の作文にして応募してください。
- ◆ 応募方法など詳しくは警察庁ホームページでご確認ください。



別表 県内の車両保有台数の推移(各年3月末時点)

	2020	2021	2022	2023	2024	
登録自動車	貨物	61,742	61,418	61,070	60,993	60,535
	乗合	2,522	2,439	2,373	2,286	2,224
	乗用	408,928	407,576	404,957	402,897	400,129
特種(殊)		21,343	21,468	21,579	21,676	21,762
	計	494,535	492,901	489,979	487,852	484,650
軽自動車	411,050	411,560	411,167	412,970	412,135	
小型二輪車	13,880	14,216	14,510	14,962	15,308	
総合計	919,465	918,677	915,656	915,784	912,093	

和4年度に微増したものと、山形県の令和6年3月末における車両保有台数は、別表のとおり、総合計が912,093台で前年同期比3,691台の減少となりました。

登録自動車のうち乗用は400,129台で前年同期比2,768台の減少、軽自動車についても412,135台で同835台の減少となっています。過去5年間の推移を見ると、総合計については減少傾向が続いており、令和5年度末総合計912,093台

県内の車両保有台数は減少傾向!

令和5年度末総合計912,093台

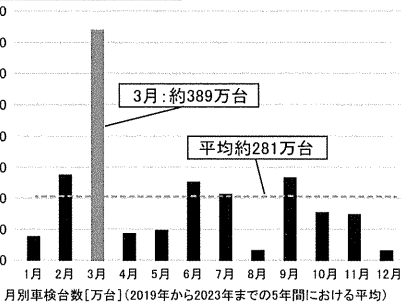
の、今回再び減少に転じました。多くの車種が減少する中、特種(殊)、小型二輪車については対前年度比で増加となりました。

来年4月から、 車検は有効期間満了日の「2か月前」から受けられます!

この度、国土交通省は道路運送車両法施行規則を改正、令和7年4月から車検が車検証の有効期間満了日の2か月前から受けられるようになります。また、自賠責保険の有効期間もこれにあわせて自動車損害賠償保障法施行規則を改正しました。

現在、車検は、車検証有効期間の1か月前から受付けられますが、車検需要が年度末に集中しており、車検の予約が取りづらいため、自動車整備士も残業や休日出勤に追われるという問題が生じていました。国土交通省では、この度の法改正により年度末における車検の混雑緩和と整備士の働き方改善が期待できるとしています。また、あらためて自動車ユーザーの皆様には、余裕をもった予約・受検をお願いいたします。

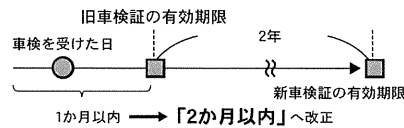
月別の車検台数



車検の受検可能期間の拡大 (今次改正)

【現行】 ※自家用乗用車の2回目以降の車検の例
車検証の有効期限前1か月以内に受検すると、
新車検証の有効期限を旧車検証の有効期限から
2年間とすることができる。

【改正後】
車検証の有効期限前2か月以内に受検すると、
新車検証の有効期限を旧車検証の有効期限から
2年間とすることができる。



国土交通省

68件発生! 暴力行為は3件

自動車検査場での不当要求行為

独立行政法人自動車技術総合機構は、令和5年度中の自動車検査場における検査職員に対する暴力行為、脅迫、威圧行為、強要行為等の不当要求行為の発生状況を公表しました。

全国93カ所の自動車検査場で、検査職員が受けた不当要求行為は68件で、前年度より8件減少しております。このうち、東北地域での発生は4件で、前年度比2件の増加となっております。不当要求行為の内訳

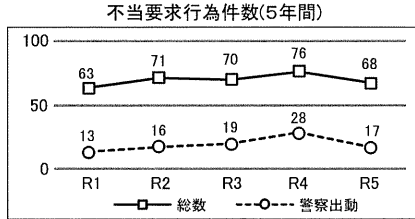
自動車技術総合機構

は次のとおりです。

◆受検者別は、受検代行業者27件、ユーザー本人21件、整備事業者19件、その他1件

◆内容別は、脅迫、威圧行為が12件、説明強要が28件、合格強要が13件、時間外強要が3件、車両放置が2件、暴力行為が3件、その他が7件

◆不当要求行為に対し警察が出動した件数は17件 (前年度比11件減少)
同機構は、引き続き国土



交通省や警察と連携し、不当要求防止責任者の選任、防犯カメラやICレコーダー等の防犯設備の活用により、組織全体で不当要求防止対策に取り組む、的確で厳正かつ公正な審査業務を実施していくとしています。

この雨、大丈夫? 迫る災害を「キキクル」で確認!

気象庁

「キキクル」は、大雨や洪水による災害の危険がどこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知る事ができる情報で、気象庁のホームページで公開されています。

テレビやラジオなどの気象情報で注意報や警報が発せられるなど、大雨による災害が発生するおそれのあるときや、急に激しい雨が降ったときは、このページにアクセスし、最新の情報を入手しましょう。大雨による土砂災害は「土砂キキクル」、短時間

の強雨による浸水被害は「浸水キキクル」、河川の洪水災害は「洪水キキクル」で確認することができます。

「キキクル」は災害発生の危険度を、災害逼迫、危険警戒、注意、今後の情報等に留意の5段階に区分し、それぞれ色分けして地図上に表示されます。気象庁は、警戒レベル5の災害切迫黒色は、何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となるため、高齢の方はレベル3の警戒(赤)が

出た時点で、一般の方も遅くともレベル4の危険(紫)が出た時点で、自らの判断で安全な場所へ速やかに避難することが重要としています。

また、「キキクル」を活用し、大雨による災害の危険の高まりをスマートフォンやタブレット、PCのアプリやメールにリアルタイムで知らせる「プッシュ型の通知サービス」の利用も呼びかけています。通知サービスの概要や利用方法は、同ホームページで確認してください。

冠水路での自動車走行テスト

JAF

JAF(一般社団法人日本自動車連盟)は、アンダーパスが冠水した場合を想定し、車がどのくらい浸水深(水面から地面までの深さ)で走行できるかを検証し公表しています。検証は、セダンタイプの車両を使用して行われ、

別表のとおり、浸水深30cmでは、時速10kmと速度が遅い場合は走行できるが時速30kmになると巻き上げる水の量が多くなり走行できない。また、浸水深60cmでは、時速10kmでも途中でエンジンが停止し走行できない。この結果から、比較的浅い浸水深では、速度を落とせばある程度まで走行できる可能性があるが、

他の要因でエンジンが止まることもあり、走り切れるとは限らないとしています。

JAFは、実際の冠水路は、見た目だけでは水深を測ることができないため、進入してから思いのほか深いことに気づき、危険を察知する頃には車が浮いて動かなくなり、エンジンの吸気口が水を吸ったり排気管が水圧で塞がれてエンジンが停止し、そのまま立ち往生という結果に繋がりがかねないと、果ては運転中に大雨に遭遇

浸水深	時速	走行可否	結果コメント
30cm	10km	○	フロントバンパー上部に水が接する程度で、フロントグリルから直接水が入ることはなく、コース設定の30mを走行した。
	30km	○	時速10kmに比べて巻き上げる水の量が多くなり、エンジンルームに多量の水が入ったが、コース設定の30mは走行した。
60cm	10km	×	フロントガラスの下端まで水をかぶり、すぐには止まらずも、登りのスロープに差し掛かった31m地点でエンジン停止

6月の県内新車新規登録・届出数

東北運輸局

山形県の6月における新車新規登録・届出数は、総合計4,046台で前年同月比6.8%減と6ヶ月連続の減少となりました。

○登録自動車は合計では13.3%の減となり、乗用車全体では13.9%減と2ヶ月ぶりの減少、うち普通車が7.2%、小型車については23.6%それぞれ減少となっています。貨物車全体でも19.8%減で6ヶ月連続の減少一方で、その他のバス、特種等は31.1%増と3ヶ月連続の増加となりました。

別表 6月新車新規登録・届出数

登録自動車	乗用	普通	6年6月		増減	率
			6年6月	前年同月		
乗用自動車	普通		1,203	1,297	▲94	▲7.2
	小型		682	893	▲211	▲23.6
	計		1,885	2,190	▲305	▲13.9
	貨物		239	298	▲59	▲19.8
	その他		97	74	▲23	▲31.1
計			2,221	2,562	▲341	▲13.3
軽自動車			1,775	1,699	▲76	▲4.5
小型二輪車			50	82	▲32	▲39.0
総合計			4,046	4,343	▲297	▲6.8

注1) 乗用車・普通は3ナンバー、乗用・小型は5ナンバー、貨物車は1又は4ナンバー、その他はバス、特種用途車等である。
注2) 軽自動車については、軽自動車検査協会調べの速報値